

議 長 次に受付番号第5号、小澤啓司君の一般質問を許します。登壇願います。

8 番 小 澤 受付番号第5号、小澤啓司。件名、松田山南斜面の散策路整備を提案する。

近年、桜まつり等で富士山や足柄平野、相模湾など雄大な景観が観光客を魅了し、リピーターがふえています。

健康志向と相まって、散策路や頂上までの登山道整備の要望があり、滞留時間の延長や回遊性の観点から、関連農道や旧道の整備と案内板設置を提案しますが、お考えをお伺いいたします。以上です。

町 長 それでは小澤議員の質問にお答えをさせていただきます。町で管理しておりますハイキングコースは、西平畑公園から最明寺史跡公園を經由して、寄清流マス釣り場までの松田山みどりの風自然遊歩道と、寄地区の2つの山頂をめぐるシダンゴ山・宮地山ハイキングコース、また山北町と松田町にまたがる高松山とはなじよろ道・虫沢古道コースがあります。また、秦野市・中井町・大井町・松田町との1市3町連携事業によるハイキングコースとして、秦野市白泉寺から三廻部林道を經由して、土佐原枝垂れ桜を見学し、寄自然休養村管理センターに至る枝垂れ桜の里コースと、大井町上大井駅から酒匂川を上流に進み、三角堤公園、西平畑公園、神山神社を散策し秦野市渋沢駅に至る八重桜咲く富士見塚コースが設定されております。この1市3町連携事業によるハイキングコースの道標につきましては、同形、共通のですね、同じ形にすることで、ハイカーの方々がわかりやすく安心してハイキングを楽しんでいただくように設置しております。また、ことしの5月に、虫沢古道を守る会の御尽力により、虫沢地区からタケ山山頂に登り、虫沢林道に至るタケ山古道の開設をいただいたところでございます。今後は、このタケ山古道も周遊コースとなり得るよう、虫沢林道手前から虫沢地区に至るハイキングコースの整備に着手していくというふうに伺っておるところでございます。虫沢古道を守る会の皆様方には、感謝と敬意を表したいというふうに思います。

この御質問いただいた松田山南斜面のハイキングコースの整備についてであります。松田山南斜面からの富士山や箱根外輪山、そして伊豆大島を初めとした相模湾の景色などなどは絶景であり、桜まつり等で都心から訪れる方々をも魅了しているところでもあります。この景色をさらに町の魅力として発信してい

くためには、小澤議員の御提案のとおり、松田山みどりの風自然遊歩道と最明寺史跡公園を經由して周遊できるハイキングコースを設定することができれば、新たな町の観光資源になるというふうにも考えております。

そこで、一つのモデルコースといたしまして、桜まつりの会場である西平畑公園から谷戸農道を通り、その先の旧道を經由して町道25号線チェックメイトカントリークラブ9番ホール近くに到着後、そこから西側に向かい最明寺公園を經由して西平畑公園に戻るコースが考えられます。このコースの特徴は、足柄平野などの景色を楽しみ、野鳥のさえずりを聞きながら森林浴を堪能し、松田山山頂では富士山を望むこともできます。また、松田山山頂付近から見る景色は、田園風景や酒匂川の流れが眼下に広がり、西平畑公園から見る景色とはまた異なる一面を見ることもできます。

このようなハイキングコースを開設するには、土地所有者の皆さんの調査から着手し、関係者の方を含め御理解いただき承諾を得ることがまず必要となります。また、松田山南斜面の整備事業についても、財源確保が重要な課題の一つとなりますので、松田山の保全・整備計画を策定することにより、県の未病を改善する事業の一環として位置づけられれば、財源確保も可能になることもありますので、補助事業採択がいただけるように取り組んでまいりたいというふうにも考えます。その後、事務手続及び財源確保のめどが立ち次第、順次ハイキングコースの整備作業に着手したいというふうにも考えております。

ところではございますが、本町には松田山の未来を語る上で計画がなく現在に至っております。今後さまざまな課題に対応するためには、昨年度末に完成をさせていただきました町都市計画マスタープランにおいて、松田山エリアの将来像についての考え方を盛り込ませていただきました。あくまでも総論的な内容ではございますが、今後計画を立てる上での基本的な考えとしてまいりたいというふうにも考えております。松田山全体をどのように保全、また利活用するのか。また、農地所有者等の高齢化による耕作放棄地や、相続により遠隔地にお住まいの方々が農地を取得されたときの対処方法などを含め、今後どうしていくのか。さらには土砂災害も十分に考慮するなど、総合的な計画を持って進める必要があるので、事務的な準備ができ次第、松田山の保全、利活

用に関する協議会などを立ち上げ、農業、林業、その他関係者の方々とともに意見集約を進めたいというふうにも考えております。今後、農道・ハイキングコース整備につきましては、松田山の保全・整備計画策定の中で位置づけを決定してまいりたいというふうに思っておるところでございます。

次に、案内看板についてでございますが、松田山みどりの風自然遊歩道、シダゴ山・宮地山ハイキングコース、高松山とはなじょろ道・虫沢古道コースについては、虫沢古道を守る会の皆様方に協力をいただき、順次整備をしてまいりましたので、ほぼ整備が済んでおるところでございます。今後は、松田町には高松山とはなじょろ道・虫沢古道コースのように、山北町につながるハイキングコースもございますので、このルートを生かして山北町さんと事業提携を図っていくことにより、神奈川県市町村振興協会の広域行政助成事業助成金が活用できるようになるために、これを財源として虫沢古道を守る会や山北町の団体様などと連携したハイキングコースの説明看板や道標設置をお願いできるよう、山北町さんとの話を進めていくことも検討してまいります。このたびは御提案まことにありがとうございました。以上です。

8 番 小 澤 虫沢の古道を守る会の方が、自分たちボランティアでいろいろとハイキングコースつくっていると。大変頭の下がる思いがいたします。私もですね、桜まつりにおいて、観光ボランティアも長らくやっていますね、それで何となく私の受け持ちが自然館のとら辺という形で、毎年あの辺に立っているんですけども、やはり昨今の桜を見に来られる方が、もっと歩きたいと、こういう希望が多いんですね。2月の末、3月の初めごろで、最明寺の史跡公園へ行きたいという方がものすごく多いんです。今行っても何にもないですよと言うんだけど、でも行ってみたい。こういうような方々だとか、それから桜まつりの会場が行って来いの道なんですね。ですからどこかぐるっと回って下へおりれないんですかという、こういう問い合わせもあります。それから、せっかくこの景色なんだから、もっと高いところ、山の頂上まで行く道はどう行ったらいいんでしょうか、こういう問い合わせもあります。あとは桜まつりの会場、非常に混んでるので、どこかもっとゆっくりとお弁当を食べる場所が欲しいんですけども、山一つ越えればそういうところがあるんでしょうかと、こういうような

質問が多くてですね、やはり来られた方が、もう桜は十分に見た、けどもう少し、せっかくここへ来たんだからもうちょっとあちこち寄ってみたいよ、こういうような要望が多いわけですね。

話はちょっと変わりますけれども、2月25日に松田サミットを開催させていただきました。いろいろお手伝いをいただきまして、ありがとうございました。そのときにですね、松田氏ゆかりの方々が岡山だとか香川県とか鳥取、岩手、北海道のほうから来られました。交通費自腹で来ていただいて、いこいの村へ泊まっていたんだですね。次の日にですね、皆さん朝早くで、もう6時には起きられて朝風呂へ入られた。いこいの村の風呂へ入りますと、ちょうど正面に富士山がよく見えるようになってる。ちょうど6時過ぎでして、雲一つなく快晴の中で富士山が見えた。そこに朝日が上って富士が朝焼けに映ってたということで、お風呂へ入った人が慌てて風呂から出て、服を着てカメラを持って外へ飛び出して行ったんですね。行きましたので私もついて行きましたら、やはりあそこの一番景色のいいところで記念写真を撮りたい。こんな富士山見たことない。雲一つなくて、しかも朝日を浴びて朝焼けになった富士山で、そこをバックにして記念写真を撮りたいということで、その富士山にですね、ものすごく感動されてました。来られた方皆もう年配の方で、60代、70代の方ですけれども、富士山が今まで見えなかった人たちが、この富士山を見るとこれだけ感動してくれるんだなど。

そういうことで、改めてこの富士山の魅力を痛感したわけですがけれども、この西平畑公園からですね、見える伊豆半島、房総半島、そして正面に大島が見えて、しかもこの景色を見ているとね、源頼朝が伊豆で兵をおこして、そして小田原へ、鎌倉へ目指してきたときに、小田原のところで石橋山の合戦で平氏方に負けてですね、真鶴の港から房総半島へ渡って、そして東京湾をぐるっと回って鎌倉へ入られた。その源頼朝が源平の戦いのときに兵を送り出していたのが、国府津から松田を通して足柄峠を越えて行った。こういうようなお話をするのもってこいの場所なんですね。そういった歴史絵巻のお話ができたり、あるいはまた富士山の宝永の噴火、あれは江戸時代、1707年ですけれども、その少し前に赤穂浪士の討ち入りがあったり、あるいは元禄の大地震が

あつたりしてあの噴火につながったんですけれども、あの噴火によってこの松田町も30センチの火山灰が積もった。山北で50センチ、御殿場で1メートル以上の火山灰が積もった。それがこの酒匂川の氾濫につながっていったんですよと、こういうような話もですね、西平畑の上から見ていると、酒匂川があつて川音川があつて話をすると、皆さんよくわかっていただける。また国府津から松田にかけて国府津～松田断層ありますね。これも関東大震災の話もできますし、フィリピン海プレートと北アメリカプレートがちょうどここで交わってる場所なんです。松田町というのはフィリピン海プレートの一番先端にある場所ですよ。これが寄地区へ行くと、向こうは北アメリカプレートに、この松田山までがフィリピン海プレートの上に乗ってるんですよと、こういうような話をできる場所が、この西平畑公園なんです。やはりこれだけのですね、松田山から見えるこういった雄大な景観こそがですね、これは松田町だけが持っている貴重な財産なんです。これが大きな、やはり町としてもセールスポイントとして、観光客誘致のために使っていかなければいけない部分だろうと思つてます。

かつてですね、もう30年も前になりますけれども、平野元町長、この方がですね、全山公園化ということをやりました。まあ30年たちますので、職員の中でも今の参事さん、皆さん御承知だろうと思つても、こういった全山公園化の中で、松田山の南斜面の整備をしていこうと。そのときは拠点の整備ができたんです。けどその連絡が、連絡通路、散策路というものはなかなか手がつけれなかった。それが30年たってですね、やはりこれだけ桜まつりに来ていただいた中で、こういったものを整備していくことが、やはり観光客を呼び寄せる大きなポイントになっていくのかなと、こういうように考えていますけれども、この松田山のすばらしさというものに対して、当然観光経済課長は十分承知されてると思つても、その辺の認識をまずお伺いたします。

観光経済課長

ただいまですね、御質問をいただきました、松田山からの西平畑公園のあり方というか、位置につきましてはですね、今、小澤議員のほうから詳しく述べていただきましたので、ただいま2点目の御質問のですね、散策路のこと

で私の考えを申しさせていただければよろしいでしょうか。

8 番 小 澤 その前にね、それはまたこれから聞いていきますけども、私はこのすばらしい松田山の景観に対して、観光経済課長としてこれをどれほど認識されているか、そのことをまず伺ったんです。

観 光 経 済 課 長 小澤議員の先ほどの御質問の内容にですね、私がプラスアルファするような大きな知識はございませんが、私もですね、平成15年から約10年間にわたり桜まつりに携わらせていただきましたが、やはり皆さんやはり感激されるのは、やはり富士山の眺めと海の眺めということですね、それにあわせてのピンク色から少し薄くなっていく桜の色を眺めていただきながら、皆さんそこですね、やはり非常に感激していただくということと、2月ごろということまで空気が澄んでるということで、うまくいくと利島も見えるということ、伊豆大島、利島、それから真鶴半島が見えていくということですね、皆様大きく感激されて帰っていかれてるといような、大きなイメージを持っているところでございます。西平畑公園からの景観については、私が知ってる範囲はこの程度ということでございますので、以上でございます。

8 番 小 澤 ありがとうございます。我々松田に住んでる人間が思ってる以上に、よそから来る人たちはこの景観がすばらしいんですね。だから毎年来たい、そういうリピーターがふえているんです。山があって、緑があって、清流があって、そして富士山が見えて、相模湾が見えて、もうその観光客を呼ぶための自然条件がすべて備わってる場所なんです。やはり我々松田町の行政サイドももちろんですけども、やはりこれだけ条件が整った場所を、もっともっとその観光客にPRしていかなければいけない。それをどうやってPRしていくのか。条件がそろっているんですから、そこを自分の足で歩いてもらえるような、そういう環境づくりをやっていかなければいけないのではないのかなと、こういうことを思ったんですけども、桜まつりのときにおいても、桜をずっと見た人が、帰りまた同じ道帰るの、ほかにないんですかと、こういう声がいっぱいある中でね、私はこういった農道の整備をして、車で行くんじゃない、歩いてほかのルートを通っておりにいただきたいなということで、具体的にですね、課長のほうに延命寺沢の西農道の、今ほとんど歩く人いないんですけども、ここの

整備ができないのか。あるいは東橋倉農道、舗装されてるところまでありますけども、それから延命寺沢におりる間がシカ柵があって、ほとんど手が入っていない。少なくともこの2つのルートぐらいはですね、そんなにお金のかかる話じゃないんですよ。こういう迂回路といいますか、回遊できる道路というものをつくれぬのか。具体的にこの2つについてまずお伺いをしたいと思います。

観光経済課長

それではですね、最初の延命寺沢西農道を活用した散策路またはハイキングコースというようなことで、まず初めにお答えをさせていただきますと、延命寺沢西農道につきましては、谷戸農道からそこのお墓の…あ、失礼しました。延命寺さんのお寺に抜けていくところにある農道でございますが、途中から行きますと、今おっしゃっていただいたとおり、終点からですね、ここから30センチぐらいの道がですね、しばらくは杉林の中で続いて行くからいいんですが、その後はもう雑木のような林の中にありまして、またそこからもうどこが、要するに農道なのかがちょっとわかりづらいような部分もありまして、なかなかちょっと真っすぐにその道がわからないような状況になっておりますので、やはり先ほど町長答弁にもありましたように、この辺のですね、やはり全体の中でですね、やはり地主さん等を見つけること、それからですね、また終点に向かって谷戸農道のほうに上がって行くんですが、もうその中は本当にもう道という道がないような状況になっておりますので、やはりその辺のですね、やはりその辺の地主さんとの関係等の、要するにどこがもともとの延命寺沢西農道なのかというところの、やはり確認が必要になってくるというふうに考えております。またそれらをやはり整備するのに当たって、やはりその水、土砂等の災害がないような形の整備等もあわせてやっていかなければならないということをお考えますと、やはりある程度、やはりお金というものがかかってきますので、それらも先ほどと組み合わせたような中で、地権者の方、また関係者等々で、その松田山全体のボリュームと、松田山をどうしていくかということも踏まえて話し合いをしながら、そのようなコースが設定できれば、私も一つの町の財産になると判断しております。

2点目の東橋倉、中央農道の奥のところをおりていただいて、そこか

らですね、本当に今おっしゃっていただきました防護柵を過ぎてから、やはり、ちょうどやはり1メートルくらい近く最初はあるんですけど、やはり真ん中のところがもう水道になって掘れていて、もう結構草等がたまっているような状況になっておりますので、やはりそういうところを整備していくのに当たっても、やはり先ほどの問題とですね、あと最後の河南沢の配水池に抜ける、多分30メートルくらい手前が、あそこ、すいません、何年か前かにですね、1回崩落をしておりますので、そこに今まで道らしき道があったんですが、そこが全部崩れてしまってますので、やはり近くにある木とかアオキとかをつかまっていかなないと、その道路、安全に渡れていくというようなこともできないような、今、状況になってますので、やはり小澤議員とか我々はですね、そういう道がハイキングコースでも当たり前かなという雰囲気はあるんですが、やはり先ほどおっしゃっていただいたように、桜まつりの18万人の方が来られて、ここがハイキングコースだよということで行くとなる、とやはり町のほうとしても安全面に、やはり力を入れて対応しなければいけないところもございますので、やはりそれらをですね、やはり当初から計画を立てて、それらをクリアをできたのに合わせて、やはりそういう整備を考えていきたいと思っております。以上です。

8 番 小 澤 課長にはですね、現地を歩いていただいて、本当にありがとうございました。確かに人が通らなくて、荒れ果てているところなんですけれども、ただやはり農道ですから、道はしっかり続いているはずなんですよ。ただ、人が通ってないから、もうそのぼさっかがひどくてね、わかりにくい。だから整備をできませんかということ言ってるんです。やはりそんなに道に迷うほどの距離でもないし、草を刈ってやるだけで、標識さえあればそれほど難しいところじゃないはずなんです。今言った橋倉、東橋倉農道の場合は、ちょっとその最後の部分で道をつくってやるのかなというようなありますけれども、でもそういったルートをね、つくってやる。そして回遊性を持たせてやるのが、私は次のステップとして必要じゃないのかなと。今の桜まつりのあれだけじゃなくて、もうちょっとあれを広げて観光客をほかに回せるような形はとれないのか。

今、桜まつりの会場、西平畑からですね、俣渡沢を越えた橋倉地区、ここが



やはり展望のすばらしいところで、やはり次の、何ていうんですか、セールスポイントはあそこになるのかなと私は思っています。今、ブルーベリーを一生懸命やってまして、ブルーベリー農園としてはやっぱり夏にはお客さんを呼べるだけのものもありますしね、展望もすばらしいところですし、そういうところが次の開発としてできないのかなと、こういうように思っています。今、課長の説明では、なかなか難しいよという、現地を見た限り難しいよという話ですけども、やっぱりそこに手を加えて、やはりそういった回遊性のある道をつくっていくことが、次のステップじゃないのかなというように思っています。

それから、今、山頂への道ということで、谷戸農道から昔ですね、あの今チェックメイトのあるところに畑がいっぱいあって、あそこへみんな山車をついで登って行った、その古い道が、しっかりした道が、あの町道25号線の下まで続いているんですよ。町道25号線ができちゃったがために、そこから町道25号線に出るのにちょっと難儀なんですね。そこを加えてやれば頂上に立てる。今、町長のほうからもお話がありましたけれども、そこをつくって、そして最明寺へ流れて行くような、そういった回遊ルートもつくっていきましょうよということなので、これは期待をしています。それはやるつもりなんですよ。それがもしやられる予定でしたら、いつごろまでをめでに予定をされているのか、その辺わかりましたらお願いします。

観光経済課長　　ただいま御質問いただきました、先ほどモデルコースということですね、谷戸農道から旧道を通って町道25号線のところに抜けるというようなコースなんですけど、そこにつきましても先ほど答弁をさせていただきましたように、やはり一つのモデルコースではありますが、やはり長い間のところの道路、ハイキングコースの整備になりますので、そこでですね、やはり財源もかかりますので、まず最初にそういう松田山の保全等整備計画の中で、そのハイキングコースそのものを位置づけまして、やはり財源確保ということで、県の未病対策事業の中の一環として含めていただいた中で、そういうようなことをステップを踏んでですね、ぜひ実施に向けて取り組んでいきたいというふうに考えてますが、なかなか今のそういう採択を受けない限りは、なかなかやっぱり単費だけでは、非常に今、私としては難しいのかなという判断をしているところでござ

います。以上です。

8 番 小 澤 なかなか石井課長はガードがかたくてですね、安全運転に徹していただけるようですけども、ただやはり観光をもっと進めて、そしてこの松田に大勢の人たちが降り立ってもらわないと、この町の活性化というものは成り立ちませんのでね、だからその辺も進めていかないと、松田の停滞はなかなか避け切れないのかなと思ってます。

それからもう1点ですね、私、松田城址について大変寂しい思いをしているんです。何人かの方、桜まつりに来た方でも、松田城址へ行ってみたいんですけども、どう行ったらいいんでしょうか。ただ農道をずっと通じて行くにはね、説明が大変難しいんです。ですから一旦下へおりて側道へ行ってくださいという、こういう説明になっちゃうんですね。やはりその辺も桜まつりの会場から農道を通って、そしてあそこは城山農道ですか。そこへ行けるようなそういった散策路ができてもいいんじゃないのかなと思いますけれども、これについてはいかがですか。

観 光 経 済 課 長 ただいま御質問いただきました西平畑公園から城山農道の上部にあります松田城跡と言われてるとこの場所までのハイキングコースにつきましても、確かに小澤議員御指摘のように、しばらく西平畑公園から中央農道を経て平田農道へ行って、その平田農道からですね、下の少し農道を下るような形になって、その石積みの脇のところ、シカ・イノシシ等の防護柵がありますが、その扉を開けていただいて入って行くと、そのまま30センチぐらいの道をずっと歩いていくと、城山農道の一番上のところに、ミカン畑のあるところに抜けていくということで、この道についても本当に、そんなに今までの中では一番きれいに、ハイキングコースとなる一番近い道かなと思っておりますが、ただ何か所かやはり御存じのとおり、城山農道に向かって行きますと、結構右側が急になってる部分等もございますので、やはりそれらをですね、やはりどのように対応していくのかということも含めて、やはり山に登られるような方が行かれるには十分な私もハイキングコースになる得るところかなとは思っておりますが、やはり本当に都会から、今いろんな有名になりました山北町のユースンブルーとかを見に行くのにもハイヒールを履いて新松田の駅におりられてで

すね、じゃあお願いしますというような方もいられますので、やはり先ほどお話をさせていただいたように、やはりそれなりの整備と、それなりの御理解等をやはりしていただいた上で、そこのハイキングコースとしてやっていくということもありますので。ぜひ既存の、今までの中では一番手を入れなくてもいいということになりますので、そこにつきましては、またいろんな桜まつり等のときに、何人かの人にちょっとモデル的に、ぜひボランティアの方で、この人だったら大丈夫だろうというような方をちょっと御推薦いただきまして、ぜひそこで、この道ちょっと歩いて感想を聞かせてくれないかというような形で、ぜひそのような対応をして、いい方向に結びつけられるような形で検討をしていきたいと思いますので、ぜひ観光ボランティアの皆様にも御協力いただきまして、そのようなことができないかをですね、今後次の桜まつりにかけて御相談をさせていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。以上です。

8 番 小 澤 それと続けて伺いますけれども、今の松田城址、ミカン畑にありますけど。手前のところが荒廃地になってますね。あそこを借りるとか、何かをして整備をしようとするようなお考えはありませんか。

観 光 経 済 課 長 ただいま言われた場所につきましては、農業を振興していく区域の中に入っておりますので、なかなかそこ…まず確認させていただきますが、やはりあそこは農業を振興していくということで、町の農業政策上になってる、農地になってるところでございますので、その辺をよく私のほうも確認をさせていただきますが、やはりそこは農地としての保全がやはり私は第一優先になるというふうに考えております。

8 番 小 澤 農地、農地って言いますけど、あれ、荒廃地ですよ。もう10年も20年も何にも手がつけてない。そこをあのままずっと農地だからって置いておくつもりなんですか。今、観光課長の答弁を聞いてますけれども、こういうことやりませんかって言っても、すべてマイナス思考が働いちゃってて、やろうという意欲を感じられない。それで観光経済課長務まりますか。（私語あり）あのね、やっぱり観光経済課長でいるんだから、この松田町どうする。やはり観光立町をやって、そしてこの町に大勢の観光客が来ていただいて、それがまた定住化に

もつながっていく。この町をよその人によく見てもらう必要があるじゃないですか。だからそういうものをもっていったらどうですかっていうことを言うのに、マイナス思考が働いちゃって、いや、それはできません、それは地主の関係がありますからって。そういうね、マイナスな話を聞こうと思って私言ってるんじゃないんですよ。できることから一つずつでもやっていきましょうよ。やっていかなきゃ始まりませんよ、この町起こしなんていうのは。きょうの答弁聞いて大変寂しい思いをしましたよ、私は。まさか課長がかわって、こんなに変わるのかな。こういうようなところまで実は思いが行ってしまいましたけれども。これじゃ、もっと前向きな発想をしてもらいたい。こういったね、松田町にある恵まれた環境をいかに生かして、そして年間を通じて観光客に来ていただく。今、人口減少だとか高齢化が叫ばれて、そしてこの松田町も振興していく中でね、やはり町がどんどん寂れていっているんですよ。やはり新松田駅があって、JRの松田駅がある。これだけ恵まれた立地条件の中で、この駅にそういった観光客、来街者をどうやって集めるのか。この駅を中心にして、その人たちが一日この周辺で遊んでいただいて、帰りはまた駅へ戻って、そこで買い物をして食事をして帰っていただく。こういう形がとっていかないとはいけないと思う。それがですね、やはり町の活性化につながっていく。そして町の中に元気を生むもとになるんですよ。高齢化が進んでいくこの松田町の中において、そういう施策を打っていかないと、ますます寂しい町になっていってしまう。そのことが経済課長、わかってますか。

観光経済課長　ただいまですね、今小澤議員が言われましたことについては、町が寂れつつあるということは、私のほうも十分に認識をしております。ただですね、そこと今御提案いただきました散策路。確かに今おっしゃっていただいたように、散策路が本当に予算とか使わずに、タケ山のようなボランティアの方によってできるような形になっていけば、私としても大変ありがたいと思っておりますが、なかなかやはり使うもの、どうしても整備をするとなるとやはり予算というものが必要になってくるということになってきますので、やはり私も気持ちは同じです。やはりそういうようなハイキングコースができれば本当にいいとは思いますが、やはりそういうようなしっかりした財源措置等しっかりした

中でお約束をしていかないと、ただただやる、やるというお約束ができないというのですね、今のやはり私の答弁が難しくなってるところかというふうに。決してやりたくないんじゃないくて、やはりそれなりのやっぱりしっかりしたものを、財源措置等なりを御説明できるような形の中で、初めてこういうようなハイキングコースの新規の設定というのが私は成り立っていくのかなということで、今回このような答弁をさせていただきました。以上です。

8 番 小 澤 やろうという前向きに立ってもらえればね。じゃあその草刈りをどうしようか。あるいは道づくりをどうしようか。お金がないんだよ。じゃあ誰かやってくれないのかと、町民に投げかけたらどうなんですか。ただそういった地主さんとの関係がありますから、こういうものは町が手配しますよ。話を通しますよ。地主さんの了解が出たから、じゃあボランティアの人、やってくださいよ。こういう投げかけをですね、町民にしていけばいいですよ。草刈りをする。人が歩くだけの道をつくる。そんなにお金かからないでしょう。要はやる気なんですよ。やっていくために、じゃあどうしたらいいか。町民に声かけてやってもらおうじゃないか。業者任せじゃなくてね。そういう知恵を働かせていけばできる話なんですけれども。これ以上言いません。あとは町長のお考えを聞いて終わりにしたいと思います。

町 長 石井課長が言うのもよくわかりますし、また小澤議員が言われるのもよくわかります。ですから同じ方向の考え方だということで、まずそこは矛をおさめていただくということをまず第1番目にお話ししておきます。

それで、松田サミットのときも実際そうですよね。松田町の職員が大分動きましたよ、御存じのように。町民の方々にも協力をしていただいた。あの絵はよかったですね、非常に。ですから、そういった格好で同じロマンを持っての方々が一つにまとまってやるということについては、皆さん本当に協力していただける、いい町民の方々がたくさんいらっしゃるというふうに思っているところであります。松田氏サミットが終わった後に、その方々が今度また松田町に来たいと思ってもらえるような場所づくりというのは、私もいいことだというふうに思ってもおります。

そんな中、松田城址が高速道路を通ったときに、安藤文一さんのほうとかと

いろいろと調査されたという話を聞いて、まだまだ手つかずのすばらしいところがあるよという話もいただいているところでもあります。ただ、本格的にやると、河村城みたいな格好ですごいお金かかるよっていう話だったので、今、小澤議員が言ってもらったように、できることからやればいいかなというところから、少しずつ機運が盛り上がれば、じゃあ草刈り手伝おうとかいう感じで、ボランティアといいましょうかね、自主的な方々が集まっていたらいいのでなからうかというふうに期待もしておりますので、そういった一つのストーリー性を持ってですね、今後取り組んでいけたらなというふうに思っています。いずれにしる松田城址については、やはりそういった民有地にあたりとかいろんな問題がありますから、まずそういったところの部分について御理解をいただくという手続論はありますけども、まずやる気の問題という話でいけばですね、少しずつできるところからやっていくべきじゃないかなんていうふうに思っています。

いずれにしる交流人口をふやしていくというのは喫緊の課題でもありますし、来たお客さんたちが楽しんでいただいて、駅周辺でお金を落とさないで帰るといふうなことだけはさすがに避けたいので、全てがその辺はつながってることだと思えるんですね。ですから散策路をつくっただけで何もお金が落ちないようでは対費用効果ということで考えると、いろいろ御指摘もいただくところもありますので、そういった皆さん方と一緒に協働になってやっていくというようにすることであれば非常によろしいかなというふうに思っています。いずれにしるとにかく前向きに、できるところからやっていきたいということで、石井課長ともよく話をしておきますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。以上です。

8 番 小 澤      もう終わりにしますと言ったんですけれども。今回の一般質問でですね、石井課長には大変強いことを言ってしまいました。申しわけありません。ただね、やはり前向きな発想でこれからやっていきたいと思います。それだけをお願いして終わりにします。

議 長      以上で受付番号第5号、小澤啓司君の一般質問を終わります。